

FEMINIST ARTISTS

フェミニストアート最前線

自由に見えるアートの世界も、長いあいだ男性優位の時代が続いた。女性アーティストが評価されにくい世界で、今再び活発になったフェミニストアート。その注目アーティストを紹介します。



Chandra Frank

GOLDSMITHS
UNIVERSITY OF LONDON

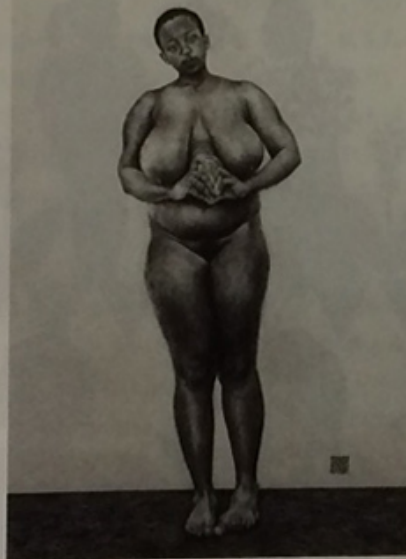
「1960年代にジュディ・シカゴ、スザンヌ・レーシーなどのフェミニストアーティストや運動家のゲリラ・ガールズが声を上げ始め、アート界の男性社会の状況が打開されていった」と語るチャンドラ・フランク。「フェミニストアートは個々によって捉え方が違います。自分の作品をフェミニズムにレベル分けされるのを恥ずかしいというアーティストもいます。しかし、そこそがフェミニストの視線で語っている。男性に合わせる事が前提だった芸術史の基準に批判的になることが必要です」

フェミニズム問題を提起する新進のアーティストが多くいるなかで、チャンドラが目にするのはフィービー・ボズウェルの裸婦を描いたドローイング。そこには性的な視線は皆無だ。また、彼女がキュレートしたエキシビションで黒人女性をテーマに取り上げたメアリー・シバンデ。そのほかにジュヌヴィエーヴ・ガイグナード、センバイル・セザイン、マーティース・シムスなどを挙げる。「彼らにはさらに境界線を押し進め、前に進んでほしい。フェミニストアートは、今はまだ小さなカテゴリーにすぎませんが、フェミニズム案件は、すべてのアーティストにとって大きな可能性を秘めています」 ■

チャンドラ・フランク:キュレーター、ゴールドスミス大学博士号候補。南アフリカ生まれ、オランダ育ち。3年前ロンドンに移住。ゴールドスミス大学でショートコースを受け持つ。「189コンテンポラリーアーツ&ラーニング」と「テートモダン」が共催したテートエクスチェンジプログラムのキュレータートークを行うなど活躍中。

GENEVIEVE
GAINARD

ジュヌヴィエーヴ・
ガイグナード
「Hidden Fences」
2017年



PHOEBE BOSWELL

フィービー・ボズウェル
「Pieces of a (Wo)man」
2017年 鉛筆画
150×120cm

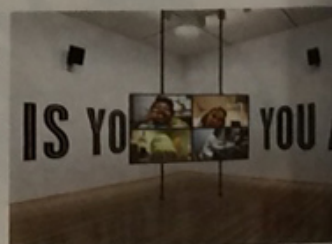


SETHEMBILE MSEBANE

センバイル・セザイン「Chapungu-The Return to Great Zimbabwe」2015年

MARTINE
SYMS

マーティース・
シムス
「Made in LA」
2016年
エキシビション



MARY SIBANDE

メアリー・シバンデ
「Re(as)sisting Narratives at Framed Framed, Conversations with Madam CJ Walker」
2009年 インスタレーション